

成人の学習要求と学習の場への参加 —情報処理に関する事業への参加者 についての事例研究—

山 本 和 人

(東京家政大学)

1. はじめに

生涯学習援助システムの構築と同時に、より具体的な生涯学習援助の方策が求められている。

学習者から望まれる生涯学習システムを考える際、必要なことは、人々が求める実際の学習がどのような内容、方法等によって行われるものであるかを、明らかにすることであろう。

本稿では、このような問題に対する一つのアプローチとして、学習の場への参加者を対象とした、インタビュー調査を基にした事例研究によって、どのような学習要求をもち、どのようにして学習の場へ参加するのかについて、個別的な状況を明らかにしようとするものである。

2. 先行研究および本研究の意図

これまで学習要求の研究は、社会教育研究の中で行われてきた。その研究成果を概観すれば、次のようになるだろう。

学習要求とは、「人びとが学習に関してこうしてほしいと願っていること」

4 特集 生涯学習援助方式の設計

と定義される^{#1}。また、要求には、自覚されているニーズと、自覚されていないニーズがあること、また、興味（interest）、関心（concern）、欲求（want）、要請（requirement）、必要（necessities）、道徳的命令（moral imperatives）といった心的な構えが、ニーズ（要求）に類似するため、同一の言語で語られる危険性が存在すること、および、学習内容の編成に際しては、それらのことが考慮されなければならないことが指摘されている^{#2}。

そして、学習要求の高度化、多様化が調査によって^{#3}実証されてきている。

このような調査は、学習要求を調べる「直接法」^{#4}とされるが、学習要求の構造を明らかにするため、調査票調査による学習要求の規定要因の追求が行われたり、参加動機の因子分析法による因子構造が追求されることになる。

こうした学習要求についての理解は、「学習関心の階層モデル（冰山モデル）」として完成されているといえよう^{#5}。このモデルの考えは、「あるひとつの学習をとりあげてみると、それについて全く関心をもたない状態から、多かれ少なかれ関心をもつ状態を経て、現実に学習している状態に至るひとつの連続体として考えることができる」というものである。これを氷山にたとえるとき、「海面上に姿を見せている学習（学習行動と呼ぶ）であり、一方海面下に隠れている大きな部分が意識レベルにとどまっている学習（今後行いたい学習＝学習関心と呼ぶ）」ということになる。さらに、「氷結していない海水部分は、その学習への関心や未だ存在しない状態（無関心）といってよい」というものである。また、学習関心は大きく二つのレベルに分けることができ、(1)顕在的関心；日常的に意識の表層にあり、行動化の可能性の高いもの、(2)潜在的関心；なんらかの外からの刺激や手がかり（例えば学習内容のリスト）を与えられてはじめて意識化されるもの、に分けてとらえることができるとする。

このように二つのレベルに学習関心を分けてとらえることにより、人びとの学習ニーズを計量的かつ的確に把握し予測を高めることができるし、また、人びとの潜在的なニーズを明らかにすることを通して、人びとが自ら気付いていない必要としてのニーズを発見し、更にそれを開発していくための

手がかりが得られるという^{※6}。そして、このようなモデルに従って、「学習関心調査」が行われることになる。

ところで、このような学習要求と学習行動の間に見られる「ギャップ」に注目して、成人の学習可能性について検討した研究もある^{※7}。その研究では、そのギャップに影響を与える比較的安定した要因として、「社会的構成要因」「学習環境要因」「生活環境要因」を考え、成人の学習要求率と学習率の差（ギャップ）に与える影響関係を検討している。

さらに、こうした学習要求（把握）の研究と並行して、「学習需要」という用語が使われ始めている^{※8}。学習需要というのは、学習に対する欲求・欲望あるいは必要性の自覚にもとづく意識や行動を意味する。また、「個々人が単に学習に対する欲求や欲望をもち、あるいはその必要性を自覚しているというだけでなく、同時に学習を行うための条件が準備されている場合に学習需要があるといえることになる」。そして、学習要求と学習需要との違いは、「学習要求が潜在的な意識の層までを含んでいるのに対して、学習需要は学習要求の中でもかなり明瞭な意識層のもので、かつ学習行動を出現させる条件がそろっている場合のそれをいう」のである。したがって「学習需要は学習要求の中のごく限られた部分を考えることができる」ということになる。

そこでも指摘されていることであるが、「学習行動は学習したい、学習しなければならないという学習要求が行動面へ表出したものである。このため学習行動が生ずれば、学習への欲求・欲望あるいは必要性の自覚は満たされるのであるから、学習要求は消滅してしまうとも考えられる。しかし学習は購買などの場合と違って、行動の出現と共にその目的が達成されるわけではない。目的達成までにはかなりの時間を要し、その間その学習行動は継続する。そして学習行動が継続している限りは学習要求は存続しているのである。したがって、学習要求と学習行動の関係は学習要求があるところまで到達するとそれは学習行動へ転化し解消するというものではない。むしろ、学習要求があるところまで到達すると、学習行動は生ずるが、学習行動が継続する限り学習要求も存続しているものである」。また、続けて、「さらに、今述べ

6 特集 生涯学習援助方式の設計

た学習要求は学習行動へ転化し解消するものではないということには、もう一つの重要な意味が含まれている。それは、学習要求が高まり、学習行動が生ずる変化は決して連続的な変化としてはとらえられないということである。学習要求が高まりその他のある特定の条件がそろったとき、突然学習行動は出現する。このように学習行動の出現は非連続的な変化なのである。このことは、学習要求の高まりを示す潜在的な学習要求の層から顕在化した学習要求の層への移行の場合も同様で、その場合も特定条件が付加したときに生ずる断絶的な変化としてとらえる方が自然であろう。」

このような指摘は、学習要求が学習行動とつながっているとしても、そのつながり方は決して連続的ではないということである。

学習需要という用語が提出される背景には、学習要求がつかまえにくく、学習機会の提供を行う立場から考えたとき、対応しやすいということがあろう。

さて、これまで質問紙を用いた大量観察による調査法を中心とした、主として統計的方法による調査研究からのアプローチについて見てきた。そうした調査に加えて、他の調査方法も大胆に活用していくことの必要性が提案され、一定の成果を見ている⁸⁹。

その研究では、「第一のプロセスである市民の学習要求・学習行動の把握が本当に正確になされているか」、「一つひとつの調査票の中からは、一人ひとりの市民の学習行動の生き生きとした全体像が伝わってこない」などの問題点を指摘している。それを克服するには、「市民のありのままの姿を、最初の段階ではできるだけ加工せずに受容して考察する作業プロセスがあってよい」としている。その研究では、「市民が思いのままに書いたレポートの分析」という方法をとった。レポートには、「学習者の文字どおりの生涯学習歴が記述されている」ため、「生活者としての学習者の立像が、より正確に把握できる」からである。

そこで明らかになったことは、①「予想以上に地域内の教育施設・組織が市民の生涯学習に大きな役割を果たしていた」こと。②「一人ひとりの学習

歴をみると、多様な学習施設、学習機関を渡り歩いたり、併用することは少なく、むしろ単一の施設・機関の利用か、同種の施設・機関の利用が多い」こと。③市民の学習計画は、『何年後にはなにをし、さらに何年後何をする』という計画ではなく、与えられた現在を真剣に生きることによって、明日を切り開くという性格の計画なのである」ということ、「多様な生涯学習施設・機関があるにもかかわらず、学習者はそれほど慎重な比較検討などを行わず、自らの体験や偶然の情報によって学習施設や機関を選択している」、などということであった。

こうしたことから、学習情報提供事業、学習相談事業推進の必要性や地域内での学習と地域外の学習とをどのように結びつけるかという生涯学習援助システムの問題点を指摘している。

市民の実像を把握し、学習要求や学習行動を全人的・個別的にとらえようとすることは、辻が指摘するように、学習情報提供事業や特に学習相談事業を推進するためには絶対必要なことである。学習相談はまさに個人に対応することである。相談の内容やあり方は個々別々な内容とあり方をしている。これまでのような、大量観察のみの調査によって、具体的な相談事業を計画することはむずかしいのではないだろうか。

したがって、本稿の検討は、①学習要求等をとらえる調査方法の変更、②成人学習者の学習のあり方を知る、③学習要求のあり方を通しての学習相談への対応をさぐる、等を意図しているといえる。今回は、成人学習者のうち、行政が行う社会教育（生涯学習）の場への参加者について検討するものである。また、学習内容としては、情報処理に関わる学習をとりあげる。

8 特集 生涯学習援助方式の設計

表1 受講者の属性

%(実数)

		H 町			K 市
		ワープロ 入門	ヤングミセ スワープロ 教室 A	ヤングミセ スワープロ 教室 B	よくわかる ワープロ 教室
性別	男	18.2(8)	100.0(24)	100.0(15)	10.0(2)
	女	79.5(35)	—	—	90.0(18)
	不明	2.3(1)	—	—	—
年齢	20歳未満	4.5(2)	—	—	—
	20歳代	9.1(4)	12.5(3)	—	40.0(8)
	30歳代	22.7(10)	79.2(19)	60.0(9)	25.0(5)
	40歳代	47.7(21)	8.3(2)	13.3(2)	35.0(7)
	50歳代	15.9(7)	—	20.0(3)	—
	60歳代	—	—	6.7(1)	—
	70歳代	—	—	—	—
	不明	—	—	—	—
学歴	旧小学校卒	—	—	—	—
	新制中学・旧制高小卒	11.4(5)	4.2(1)	6.7(1)	50.0(10)
	新制高校・旧制中学卒	61.4(27)	37.5(9)	46.7(7)	—
	大学・短大・高専在学中	—	—	—	10.0(2)
	短大・高専卒	20.5(9)	37.5(9)	33.3(5)	30.0(6)
	大学・旧制高専卒	6.8(3)	20.8(5)	13.3(2)	10.0(2)
	その他	—	—	—	—
	不明	—	—	—	—
職業	勤め人	29.5(13)	—	—	60.0(12)
	自営業	4.5(2)	—	6.7(1)	10.0(2)
	農林漁業	—	—	—	—
	学生	—	—	—	5.0(1)
	主婦	56.8(25)	95.8(23)	73.3(11)	20.0(4)
	無職	—	—	—	—
	その他(パート等含む)	9.1(4)	4.2(1)	20.0(3)	5.0(1)
	不明	—	—	—	—
合 計		100.0(44)	100.0(24)	100.0(15)	100.0(20)

3. 調査対象および調査方法について

今回の調査対象は、公民館で行われた事業（講座・教室）への参加者^{#10}および、高等学校開放講座への参加者^{#11}である。

対象となった事業は、①「ワープロ入門」89.5.23～6.27全6回。毎週金曜日午後7：00～9：00。受講者46名。内容：パソコンによる市販ソフトのワープロ実習。②「ヤングミセスワープロ教室」89.6.20～7.18全5回。毎週火曜日午前10：00～12：00（Aグループ）、午後1：00～3：00（Bグループ）。受講者は各グループ30名。内容：1～2回は「書」および「書くこと」についての話。3～5回はワープロ専用機によるワープロ実習。③「よくわかるワープロ教室」90.6.6～6.27全10回。毎週月・水・金午後6：30～9：30全10回。受講者26名。内容：パソコンによる市販ソフトのワープロ実習。

調査の中心は面接調査である。受講者全員を対象とする質問紙調査を実施し、インタビューに応じてよいとする受講者に対して、個人面接調査を行った。

各事業（講座・教室）のうち、公民館で行われた事業については、開始時と終了時に質問紙調査を実施した。高等学校開放講座については、講座途中第7回実施時に質問紙調査を実施した。

質問紙による調査対象となった人々の性別、年齢別等の構成は表1の通りである。

また、面接調査の対象となった人は以下の通りである。ただしここでは、面接過程の再現性の点で、録音テープの記録状態がよかったC、Dさんの事例を中心に報告する。

A 氏：男性。29歳。高校卒。家業（製パン業）に従事。公民館利用は初めて。「ワープロ入門」受講者

Bさん：女性。46歳。高校卒。家業（自転車販売修理）手伝い。講座参加

の公民館利用は初めて。「ワープロ入門」受講者

Cさん：女性。36歳。高校卒。主婦。夫が自営する金型製作の会社の事務に従事。「よくわかるワープロ教室」受講者。

Dさん：女性。38歳。高校卒。主婦。「よくわかるワープロ教室」受講者

4. 面接調査の質問と回答

学習要求と学習行動の関係をさぐるため、面接調査は、講座参加の意味づけと学習の計画性を中心に調べた。大きな質問内容としては、a. 学習内容について、b. 日常生活とのかかわり、c. 参加の動機、を柱としている。以下に面接調査における質問と回答を示すことにする。

〈Cさんの場合〉

- ① あなたが、参加されている講座は、どのようなことを学ぶものと言えますか。

ワープロの使い方ですかねえ。

ワープロの使い方？。

はい。

- ② その他には何か学ばれようとしていることはありますか。

いいえ別に。特別に求めていますませんけど。

ああ、そうですか。

あとはもしできれば公式文書っていうんですか事務文書、そういうも

のを教えていただければいいなあと。

それは、どうして？

自営業です。私は。だからです。

どのようなお仕事をされている……？。

金型といいます。金型の設計製造です。

③ ああ、そうですか。で…どうして参加することになったのですか。

どうして、とは？

参加しようと思ったきっかけであるとかですね。

ああ、そうですね。やっぱり自分の家の仕事柄時代に合ったように。ただ、事業は家内工業的な面がありますけども、受注面とか、そういう面ではかなり周りにアピールするものがなければならぬ。で、だから本当に家内工業的だけではダメだと社長は思っていると思うんです。だから、私もそれに協力していかないといけないと思って、やっぱり手書きとかそういうものよりも、ある程度の形をとったものを発行したくて。それでワープロを使えたらいいんじゃないかと思って。

④ K工業の公開講座、ワープロ講座ということで行われているわけですが、こういうワープロ講座のような学習ができる場所とか機会というのは、他にもご存知でしょうか。

12 特集 生涯学習援助方式の設計

はい。

それは具体的に言うとどのようなものですか。

民間企業もありますし、それから今日も広報にたくさん出てましたよね。K商業も工業と同じかんじですよ。

ただ、結局学校が商業に変わっている。それから、これはみんな公の機関なんですか。児童会館の近くとか、あとは社会人なんかでたくさん。ワープロだけでも3つ程出てましたね。広報に今日。

民間のもご存知？。今挙げられたのは公的機関の学習の場ということだったと思うんですが、民間のものもご存知でしたら、特に挙げられるところはありますか。具体的にはどんなものがありますか。

KOっていうのは、KO自動車学校、KOライセンススクールっていうところでやっています。

そこでもワープロ講座をやられるんですか。

ええ、そうです。

その他にありますか。

あとは、Aとか、Aは結局そのあれになるのかな、あのライセンス・スクールのとこの。あと2、3見つけたのは、文化センターっていうんですか。そういうところでもやってますよねえ。詳しくは見てないっていうか、まだ本当に行こうという意志がなかったから、あそこでもやってるのか、やってるのかっていうかんじで見てるだけで。

そういうCMっていうかそれは2, 3度見てますけど。

- ⑤ 今回の講座に参加してみてどうでしょう。満足っていうのは。満足しましたか。

ええ。

それはどういう点？。またどうして満足されてるかお話していただけますか。

ライセンス・スクールとこちらと機種が違うんです。ワープロの、で、だから、あ、家にあるワープロもまた機種が違うんです。だから結局、基本的な操作というのはワープロが違ってもだいたい一緒なんだなっていうことの確認と、そういうものさえあれば、いろんな機種を使いこなしていけるんだなっていうことを確認できたっていうことと、あとそれからなんですかねえまず、そこですかねえ。で、それからある程度の例えばそれに完全にマスターしたということとはできないですけども、そういう自信というか臆病にならずになんでもできるんじゃないか。ワープロに関してはできるんじゃないかな。マニュアルを見てやってけばなんとかできるんじゃないかなということを思えられたということです。

楽しかったことってありますか、この講座に参加して。

楽しいですねえ。いろんな人と交われるから。しんどいながらも楽しいですねえ。

- ⑥ この講座が、昨日で7日めですが、全て終わったらCさんの生活はどんな

りますか。

日常生活は変わりませんよね。

日常生活は変わらない？。

はい。変わりませんよね。ただ家の方では、仕事面ではかなり、時間の短縮はできないですよ。かえって、原稿書いてからまた打たないといけないから。頭の中で処理するっていうことはまだできないから、かえって時間は、かかると思います。ただ、でも表面的なっているか、外面的っていうかそういうものはシステム化されたみたいなかんじになるんじゃないか、と思うんですけど。システム化という言葉が合わないかもしれませんけど。

仕事の上で？

そうじゃないか、と思うだけです。あとは住所録なんかは、ずいぶんね。パッと見たりするのに、見易くなるんじゃないかと思うんです。

⑦ この講座が終わったら、またこういう講座を受講されますか。

はい。

それはどんな講座？

うーんと、やっぱり、いっぱい知らないことあるから、どうでしょう。勉強して、まあ何でも勉強ですよ。え。どういった勉強っていったらいいのかなあ。いろんな人の話を聞いて自分を高めたいと思っています

から。

〈Dさんの場合〉

- ① 一応、ワープロ講座ということですが、そのワープロ講座ではどのようなことを学んでしょうか。その辺からお伺いしたいのですが。

それは、もう、やっぱりワープロの使い方です。まず、特に私の場合はお仕事に行っていないものですから、家にいるから全然必要はないんですけれども、今から、子どももいますし男の子ですからちょっと先にワープロとか扱うんじゃないかなと思って、そういうときにやっぱり自分も知りたいなと思ひまして習いに来たんす。

- ② そうすると、ワープロの基本操作の他に学ぶことって何かありますか？

そうですね、気の合った仲間作りと言ひますか、こういう教室というか、割と何でも参加するのが好きですから講師の方のお話聞いたりとか仲間のお話聞きたいなと思ひまして。

- ③ この講座に参加するってということになった直接のきっかけは？。

K市広報を見て、です。K市広報をいつも見てて前も1回申込んだんですけど、そのときは先着順で一杯でだめだったんです。今回はどうしても受けたいなと思ひまして。

- ④ こういう高校の公開講座という中で、ワープロ講座があるわけですが、こういう講座の他に、どこかでやられている機会っていか学習の場っていうのはあるんでしょうか。

16 特集 生涯学習援助方式の設計

ワープロ教室みたいなものですか？

はい。

そういう系統のものは無いです。市のスポーツ教室とかはどんどん参加してますけど、こういう機械類は無いです。はじめてです。

他にやっているところご存知ですか？。ワープロ教室とか、パソコン講座とか。

わかりませんが、自動車学校では今ほとんどやってるようですけど。ただ、すごく受講料が高いですね。今、私どうしても必要なんでしたら、そこへ行きたいんですけど今は特にはさしあたって使うことないんで、市のに申込んだ一番の理由は安いということです。

それはどれくらいでしたか？。

私、免許も最近取ったんですけど、そのときでだいたい2万。習うだけで2万ぐらいだったんじゃないかと思います。もうちょっとすると思いますけど。

その他にはどこかご存知ですか？

個人のワープロ教室だと思いますけどわかりません。

この高校の他にはどこか学校でやられていますか？

はい。商業高校で。

商業高校の方は行かれなかったんですか？

そのとき、商業高校の方を申込んだと思いますけどだめだったんです。
どうしても使うとなれば必死にやるんでしょうけど。

⑤ この講座に参加されて満足しましたか？

ええ、とても満足しています。

それは、自分の願いがかなったからでしょうか？

そうです。やっぱり申込んだ人がたくさん居たのに入れたことと、はじめてのことに挑戦するということで、やっぱり楽しいと思います。

⑥ またワープロ講座に関わりながらうかがいますが、この講座は10回というシリーズですけれども10回全てが終わったらDさんの生活はどうなりますか？

本当はワープロすぐ買いたいんですけど、中学の子供もいますし、その子がもうちょっとしたら自分で機械買いたいって言い出すんじゃないかと思って、そのとき子供の希望を取り入れて買って家でもワープロ活用したいなあと考えてますけど。

⑦ この講座は、ワープロってことの講座なんですけど、これが終わったらまたこんな講座を受講されますか？。

それはまだ直接考えてないんですけど。また広報みて、気に入った講座があれば行くかもしれませんけど。

5. まとめ

提示し得た面接過程の記録は、全体からすればごく一部にすぎない。また、前後を切断したものもあるので、十分な回答結果を提示し得ていないともいえる。さらに、参加者の構成から考えて、回答者は必ずしも受講者を「代表」しているわけではない。事例数が少なすぎるため、今後さらにこの種の面接を続けて、事例数を増やしながら理論化していきたいと考えている。今回の調査結果のまとめを箇条書き的に示せば、次のようになろう。

- (1) 市民は市町村広報によって学習の機会を知る人が多い。特に行政が行う学習機会の提供については、質問紙の結果からも言える。したがって、学習情報の提供は広報の充実がまず第一に求められるのかも知れない。(Cさんの④, Dさんの③)
- (2) 学習の動機として、職業上に生かしたい、日常生活に生かしたい、ということが回答として返ってくる場合が多い。しかし学習内容が職業上、日常生活上生かせるものかどうか十分わからないまま学習が続けられることがある。一方、学習内容についての見通しがついた時、学習要求と合わない場合、すぐに学習＝学習の場への参加が中断されてしまう。Aさんの場合ここには面接過程を示していないが、面接後「これくらいなら自分でやった方がよい」ということで出席しなくなってしまった。学習内容を事前に十分知らせること、ないしは学習相談が大切であるといえよう。(Cさんの③, ⑥, Dさんの①)
- (3) 学習者は一つのことを深めようとして学習を続けるわけではない。また、学習計画(予定)もはっきりしたものがあるわけではないし、目の前に提示されてはじめて“食指が動く”といえる。個人的に学習する方法が身についているかどうかの差かも知れないが、学習内容の提示によって興味・関心が解発される場合が多く、何を学びたいか分っていないこともある。(Cさんの⑦, Dさんの⑦)

- (4) 学習の場への参加者は、「たいへん興味・関心をもって」いて参加して来る。ワープロやパソコンの入門講座の場合、「情報処理」について知るといふよりは、個別的な機械の「操作方法」について知することに重点が置かれがちになる。今回の場合、「何を学ぶものであるか」とたずねた場合、「操作方法」であるという回答が返ってくることでわかる。(Cさんの①, ②, Dさんの①, ②)
- (5) 学習それ自体が等しい場合もあるが、学習の場へ参加することによって、他の学習者との交流ができる点については、「楽しい」とする人が多い。(Cさん⑤, Dさん②)

6. おわりに

冒頭でも述べたが、人々はどのような学習要求をもち、どのようにして学習の場に参加するのか、それを明らかにするため、ここでは、参加する講座をどのように意味づけているか、また、成人の学習の計画はどのようなものであるかについて、その一端を調べた。最後に、学習者からみた望ましいと思われる生涯学習援助システムはどのようなものかということにかかわって、一言述べておこう。

学習者は様々な「動機」から学習の場へ参加する。参加するためには強い要求がなければならないといえる。しかし、それは、学びたい学習内容に向けられているものとは必ずしもいえない。なぜならば、講座の内容に対する意味づけが十分なされないまま、あるいは、どのようなことを学ぶのかということ事前に十分納得しないままに、参加行動が見られるからである。学習の場へ参加することによって他の人との交流があることを楽しみとしていることも、それと関連してくる。また、学習をするという行動が現在見られるとしても、次に学習したい事柄、学習内容が十分想定されているわけではない。学習内容についての理解と意味づけ、学習活動の見通しと計画性が不十分なのである。確かに、それは成人の学習の特徴ではあるかも知れない

が、事前に伝えられる情報が不十分といえるかも知れない。講座各回の内容を示すだけでなく、必要とあらば細かな学習相談や情報提供を行うべきであろう。生涯学習社会における新たな学習援助方式として期待される学習メニュー方式も、そうした学習見通しにかかわる学習相談があってこそ成り立つと思うのである。個別的な学習者の要求にどう応えるか、用意されている学習機会は学習者の要求にどのように応じられるものであるかを掲示できてこそ、生涯学習援助システムが機能するのではないだろうか。

（この研究の調査は、東京家政大学特別研究費（1989年度）によって行われたものである。）

注

- 1) 辻功「学習要求把握の意義」辻功他著『生涯学習テキスト6 学習要求の理解』, 実務教育出版, 1987
 - 2) 辻功「日本人の学習要求」辻功・古野有隣編著『日本人の学習—社会教育における学習の理論—』, 第一法規, 1973
 - 3) 同上文献および市川市教育委員会『市川市民の生活と学習に関する調査報告書』1972, 板橋区教育委員会『板橋区民の文化・学習・スポーツについてのアンケート』1989, など
 - 4) 佐々木正治「成人の学習要求とその助成」日本生涯教育学会編『日本生涯教育学会年報第4号』, 1983
 - 5) 藤岡英雄「学習関心の階層モデル—学習ニーズ把握の新しい枠組みとその有効性について—」日本生涯教育学会編『日本生涯教育学会年報第7号』, 1986
 - 6) 同上
 - 7) 辻功, 山本恒夫, 浅井経子, 水谷修「成人の学習可能性」日本生涯教育学会編『日本生涯教育学会年報第2号』, ぎょうせい, 1981。最近実施される調査には面接調査が取り入れられているものもある。たとえば浦安市教育委員会『生涯学習に関わる市民意識調査報告書』1990. 3では, 事例調査としてインタビュー調査結果が収録されている。
- こうした面接調査の重要性の指摘は, エスノメソドロジーの成果に注目している結果ともいえる(注1文献参照)。
- 8) 浅井経子「学習者の学習需要把握」伊藤俊夫・阿部重男・辻功編『新社会教育年史』, 第一法規, 1983

9) 辻功「個人的生涯学習計画と援助システム」辻功・新井郁男編『生涯学習講座 3 生涯学習援助の企画と経営』, 第一法規, 1989

10) 東京都三多摩地区H町H公民館で行われた平成元年度の事業である。調査票による調査は以下の通りに行った。

講 座 名	受講者数	調査実施日	有効回収票後
ワープロ入門(開始時)	46	89. 5 .23	44
ワープロ入門(終了時)	46	89. 6 .27	33
ヤングミセスワープロ教室A(開始時)	30	89. 7 . 4	15
ヤングミセスワープロ教室B(開始時)	30	89. 7 . 4	24
ヤングミセスワープロ教室A(終了時)	30	89. 7 .18	18
ヤングミセスワープロ教室B(終了時)	30	89. 7 .18	24

また、「ワープロ入門」受講者へのインタビュー調査はA氏(89. 5 .31), Bさん(89. 6 .22)に行った。

11) 石川県小松市K高等学校の平成2年度開放講座である。調査票による調査は以下の通りに行った。

講 座 名	受講者数	調査実施日	有効回収票後
よくわかるワープロ教室	26	90. 6 .20	19

(講座第7回)

また、面接調査はCさん, Dさんに対し90. 6 .21に実施した。